



徳島大学病院
先山 正二准教授

肺がんに対する主な治療法は現在のところ、手術、抗がん剤治療、放射線治療です。肺がんの進み具合(進行度)、がんの種類(組織型)や患者さんの状態などを考慮し、手術、抗がん剤、放射線のいずれか、あるいは

の有無などによりⅠ(Ⅰ)期からⅣ(Ⅳ)期に分けられますが、Ⅰ期、Ⅱ(Ⅱ)期の肺がんが手術の良い適応です。Ⅲ(Ⅲ)期はその一部のみが手術の対象となり、Ⅳ期は手術以外の治療法を考慮します。通常、肺は右肺が上葉、中葉、下葉の3葉(簡単には三つの「袋」と思ってください)、左肺が上葉と下葉の2葉に分かれています。手術ではがんができた肺葉を切除し、関連するリンパ節も同時に切除します。術後は進行度により抗がん剤による治療を考慮します。早い段階の肺がんでは、肺葉の一部の切除と、リンパ節の切除範囲を縮小、または省略が可能な場合もあります。

四国健康七

はこれらを組み合わせた治療(集学的治療)を患者さんと相談し、行います。

肺がんの外科的治療法

ここでは、肺がんに対する外科的治療法について述べます。肺がんの組織型には腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小細胞癌などがあります。このうち、小細胞癌は、他の組織型と比べてその腫瘍の性格と治療法が異なります。従って、小細胞癌と非小細胞癌(腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌など)に分けて扱います。外科治療の対象となるのは大部分が非小細胞癌です。

肺がんの進行度は、がんの大きさとリンパ節や全身への転移の

最近の肺がんの手術は、胸腔鏡(内視鏡の一種)を用いて手術をする機会が増えていきます。胸腔鏡下の手術は、胸を大きく開けて行う肺がんの手術と比べ、傷はより小さく、痛みが少なく、術後の回復が早い、体への負担が少ない(低侵襲)方法です。最近、当科ではさらなる肺がん手術の低侵襲化に向け、**ダウインチ**という手術用ロボットを用いた肺がんの手術にも取り組んでいます。なお、手術は安全にかつ、がんをきれいに取り除くことが最も重要ですので、場合によっては大きな傷で手術を行う場合もあります。